

令和4年度

保育所の自己評価

社会福祉法人さつき会

不動さつき保育園

【評価対象期間】

令和4年4月1日～令和5年2月28日

【評価責任者】

東京都目黒区下目黒5-18-4 不動児童館2階

園長 中村 希美

保育所の自己評価

令和4年度

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当園では、このことに基づき検討し、保育園（組織）としての自己評価について、評価の項目、視点方法および評価結果の示し方等について標準的な様式として作成しました。

当園は、「保育士の保育内容等の自己評価」を踏まえ、全保育士で園を評価及びこれに基づく改善を行うという一連の取り組みにより保育の質の向上を図ります。

保育所における自己評価の結果

- A: たいへんよい
 B: よい
 C: 一部検討を要する
 D: 改善を要する

◎ 保育の計画の編成と実施にかんする評価

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育方針	☆家庭のように安心し、ゆったりとくつろげる環境の下、子どもの「ありのままの姿」を受け止め丁寧な言葉かけや援助を行います。これらにより、子どもの様々な要求を満たし生命の保持及び情緒の安定を図ります。一人ひとりの育ちの道筋に沿って保育が行われるよう発達過程や興味・関心を慎重に見極め、子どもが主体的に行動していける「待つことのできる保育」「刺激を与えられる事の出来る環境」を重視します。	/				(1)年度初めの職員会議にて職員間でしっかり共有し、保育に生かすことができている。 (2)掲示の仕方も保護者が分かりやすいよう工夫している。 (3)入園前に園のしおりにて説明するとともに、園だよりにて定期的に知らせるよう工夫している。
	(1)保育方針を年度初めに職員で確認している	○				
	(2)職員や保護者の見やすい場所に掲示している	○				
	(3)保護者に配布物を通して、保育理念や保育方針を周知している	○				
保育目標	☆にこにこ…よく食べ、よく遊び、よく眠り、よく笑う子ども きらきら…嬉しい、楽しい、大好きを表現できる子ども わくわく…面白そう、やってみたいを発見できる子ども	/				(1)保護者とも密に情報共有しながら子ども一人ひとりに寄り添った活動内容になるよう配慮することができた。 (2)職員間で意見交換をしながら保育を展開し、行事等も保育の延長線上で身近に感じられるような取り組みにするなど、保育目標への理解が深まった。
	(1)保育目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	○				
	(2)保育目標は、前年度の反省を活かし、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	○				
全体的な計画	(1)全体的な計画の作成には職員が参加している	○				(1)前年度を振り返り、全職員で検討している。 (2)より良い保育園となるよう引き続き実態把握に努める。
	(2)地域の実態や保育者の意向などを考慮して全体的な計画を作成している	○				
指導計画	(1)各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画になっているか	○				(1)今の子どもの姿に合わせた計画を立て保育をすることができている。 (3)季節に合わせたねらいを考え、子どもに合わせた活動内容を計画している。行事は日々の生活の中で身近に感じられるよう取り入れるようにしている。
	(2)環境構成や素材・用具を適切にいかした指導計画になっているか	○				
	(3)保育所の生活における子どもの発達過程を見通し、生活の連続性、季節の変化などを考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらい及び内容を設定している	○				

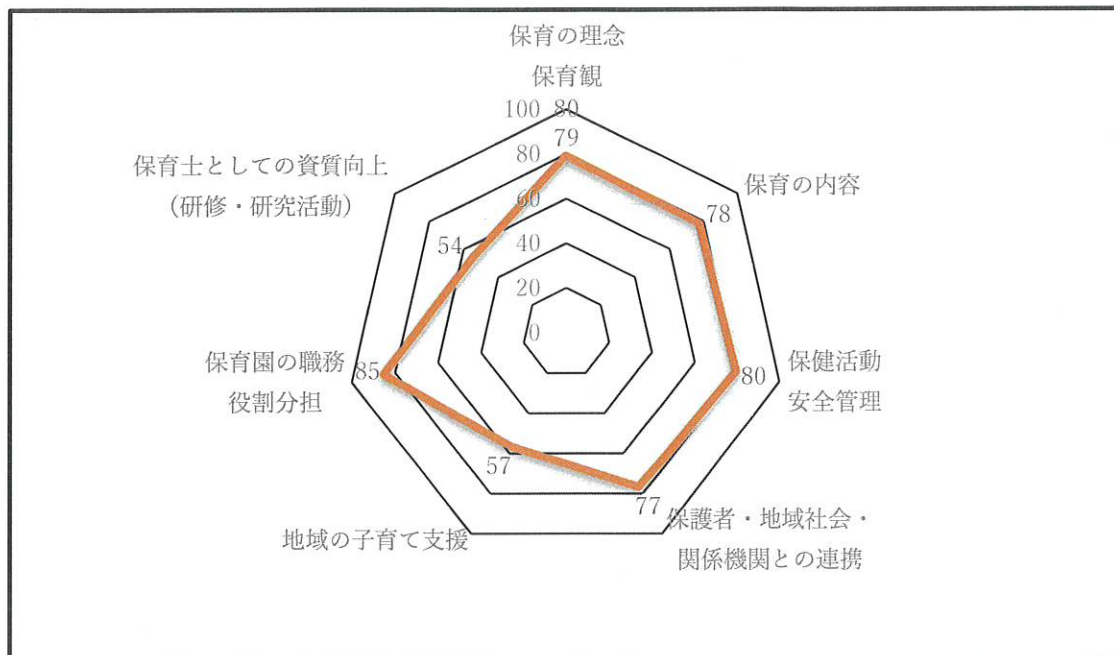
項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育内容	(1)子ども一人ひとりを理解し、受容しようと努めている	○				(1)クラス会議や日々の申し送りで見える事や子どもの姿を共有し、子どもの最善の利益を考慮した関わり方が統一してできるよう努めた。 (2)毎日決まった生活リズムで活動することで、子ども達が主体的に活動したり、自然に基本的生活習慣が身についたりするような環境を整えることができた。
	(2)基本的生活習慣が身につけられるような活動内容及び環境が整備されている	○				
	(3)様々な表現活動が体験できるように配慮している	○				
	(4)身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている		○			
	(5)遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している		○			
保育・行事	(1)一日の流れ(デイリープログラム)は現行でよいか			○		(1)今年度の子どもの発達をみると計画した時間構成では無理のあるところがあったので、様子を見て早い段階で変更するべき点があったと感じる。 (2)コロナ禍で予定変更があった為見極めが難しいところがある。 (3・4)計画が遅く、職員間の連携が取りづらいことがあった。反省を次年度に活かす。
	(2)行事の種類や回数は適切か		○			
	(3)行事のねらいを計画や実施に十分いかしているか			○		
	(4)PDCA サイクル(計画・実施・評価・改善)の体制がとられているか			○		
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか		○			
健康管理	(1)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成の為、「園だより」「保健だより」などで情報を保護者に提供しているか	○				(1)毎月決まった日に配布し、情報共有をしている。 (3)今年度は嘔吐下痢が流行り、保育者への感染のリスクも高かった。研修等で処理だけでも感染する危険性があること等を周知し適切に対応できた。
	(2)乳児の安全確保のために家庭・地域社会・関係機関と連携を図っているか	○				
	(3)感染症などを予防するマニュアルがあり、職員に周知し実行している	○				
食事	(1)食育を通して子ども達が楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	○				(1)年齢・発達に応じた食育活動の中で、食を楽しむ事を第一に考えることができた。 子どもが食材に興味を持つきっかけを提供したり、栄養士とも関わる機会を多く持つように心掛けた。 (2・3)については、本年度に関して該当なし。
	(2)アレルギー疾患を持つ子どもに対し主治医からの支持を得て適切な対応をおこなっている					
	(3)アレルギー疾患を持つ子どもへの食事の提供は、間違えのないよう個別のトレーなどで取り分け、調理師・保育士間で声出し確認をしている					
環境	(1)園内の掃除がなされ、清潔に保たれ子どもが心地よく過ごせるように配慮している	○				(2)子どもにとって危険なことは何かを保育士間で相談し考えるようにしている。 (3)季節を感じられる工夫がもっとできると思われるので、次年度の重要課題にする。
	(2)園内外の衛生面・安全面に配慮している	○				
	(3)園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている			○		

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
人権尊重	(1) 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮している	○				一人一人が常に意識をして子どもと関わることができるよう、日頃から人権についての話題を提起し考えることが出来た。「子ども」ではなく「一人の人格を持った人間」として大事にすることを全職員共通認識して保育に当たられた。
	(2) 日本語によるコミュニケーションが困難な保護者に対して、園の意向や連絡事項が正しく伝わるように配慮している	○				
	(3) 性差への先入観による固定的な概念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	○				
子育て支援	(1) 送迎の際の対話や連絡事項への記載などの日常的な情報交換に加えて、別の機会を設け個人面談をおこなっている	○				一人一人の子ども・保護者と丁寧に関われる、という小規模保育園の良さを最大限に生かして子育て支援に当たられた。コロナ禍で保護者の立ち入りを制限しなくてはならない状況もあったが、その中でもできる限りの受け入れをし、園の様子を実際に見る機会を設けることが出来た。
	(2) 家庭の状況や保護者との情報交換が必要に応じて、関係職員に周知されている	○				
	(3) 保育士は日常から保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	○				
	(4) あらかじめ年間行事の目標を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	○				
地域との連携	(1) 地域の関係機関などと連携を深めるようにしている（育児相談などに際して、専門機関と相談や連携が出来ている）		○			(2) ハロウィンパーティーでは今年度も地域の方との交流の場を設けた。 (3) 中学生の職場体験を2校受け入れ、小学生のボランティアも年々希望者が増えている。
	(2) 地域のイベントやまつりに参加し、地域の人々と交流できる機会を設けている		○			
	(3) ボランティア・職場体験等の人々を積極的に受け入れている	○				
	(4) 乳児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している	○				
開かれた保育所づくり	(1) 地域の子育て支援として、保育室等を開放しているか	○				(1・2) おひさまタイムは1日2家庭限定にして行ったが、後半はコロナが増えたこともあり中止となった。屋上を利用した活動を考えられれば良かった。繰り返し参加して下さる方もいた。 (4) 情報発信については、引き続き効果的な方法を考えていく。
	(2) 地域の子ども同士、あるいは親子と一緒に遊ぶことが出来るような場の設定を行っている	○				
	(3) 職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか	○				
	(4) ホームページ等で施設の情報を発信しているか			○		
危機管理	(1) 避難訓練・交通安全指導を行い、計画に基づいて適切に実施している	○				(1) 毎月行い、反省は全職員で共有し次回に活かすことが出来た。それぞれの役割を意識して訓練していることで、有事の際も慌てずに行動できると感じる。
	(2) 緊急時、慌てずに対応できるよう医療機関の連絡先を表示している	○				
	(3) 乳児の安全を図るため、家庭・地域社会・関係機関と連携を図っている	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
守秘義務	(1) 子どもの個別記録は、個人情報保護法に基づき管理している	○				個人情報の管理方法について再度周知し責任を持って取り扱う意識を高められた。
	(2) 保育業務で知りえた子どもの家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている	○				
園内外の研修	(1) 各研修会・講習会への参加体制の充実を図っている	○				キャリアアップ研修をはじめ、様々な研修会に参加できた。園内研修はマニュアルを重点的に学び直すことが出来た。
	(2) 研修の成果を日常の保育に活かし、乳児の育成に反映させている	○				
組織運営	(1) 能動的・合理的な運営組織になっている	○				(2) 新入社員が定着せず、クラス運営が難しい場面があった。 (4) 予定していた会議が出来ない事もあった。 (5) ベテラン職員がリーダーシップを図りながら進めてきたが、互いに助け合うという意識が弱いように感じた。
	(2) 職員の配置は適材・適所である		○			
	(3) 係りや仕事の分担・役割は適切である	○				
	(4) 各種会議を適切かつ効率的に進めている			○		
	(5) 職員相互がそれぞれに全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく保育園の運営にかかわっている			○		
年齢別・クラス運営	(1) 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	○				(1・2) 各クラス、今の子どもにあった保育運営をするために職員間で話をしながら進めることが出来た。 (3) 朝・夕は異年齢保育に関わりながら遊ぶ環境を作れた。
	(2) 年齢別・クラス目標は、乳児の実態に即して設定している	○				
	(3) 同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っている	○				
	(4) 評価、資料(諸記録)を集積している	○				
保健・安全指導	(1) 年齢別・クラス運営に活かされるような具体的な保健対策を講じている	○				(1) 保健衛生リーダーが中心となり、保健・安全指導を行ったが、0～2歳児は個人差も大きく、教える内容も違う為、来年度はクラスで保健・安全指導をしていければ良いと感じる。
	(2) 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している	○				
	(3) 健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発をおこなっている	○				
施設・設備	(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的におこなっている	○				(1) 月1回の安全点検日を設け、確実に点検ができるようにしている。 (3) 日頃から不審者対策をきちんと行い、職員研修も実践的に行っている。また突発の不審者対応訓練を警察署協力の下行い、対応力を上げている。
	(2) 遊具・用具等を、活用しやすいように整備・保管している	○				
	(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っている	○				
	(4) 掲示板・掲示場所等を適切かつ効果的に活用している	○				
外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映している					*今年度は受診なし。 令和3年度に受けた第三者評価結果を運営に反映している。
	(2) 地域や保護者の意見を施設運営に反映している					

保育士自己評価 平均の分析グラフ

実施日 令和4年 11月



このグラフから、課題や特色を見つけ自己評価結果の活用にする

		平均点
1	保育の理念 保育観	79
2	保育の内容	78
3	保健活動・安全管理	80
4	保護者・地域社会・ 関係機関との連携	77
5	地域の子育て支援	57
6	保育園の職務・役割分担	85
7	保育士としての資質向上 (研修・研究活動)	54

保育士が行った「保育内容の自己評価」の平均は72%で、昨年度より2%増加した。しかし、保育士としての資質向上が4%減少した為、来年度は年度当初の面接で能力向上目標を設定し、意識して取り組んでいけるようにする。

今年度は「子どもの主体性を育てる保育」を重点目標として取り組んできた。子どもを一人の人間として大事にすること、子どもの思いに寄り添い、子どもを信じて見守ることが主体的に生活できる子どもを育てる上で大切なことだと学んだ。また、子どもの人権に関わるニュースが多く取り出され、同じ保育士として心を痛めると同時に「保育」という仕事についても改めて考えた。次年度は職員の温かい人間力を最大限に活かした保育をしていきたい。

保育士は、資質向上を図るために自己評価を行い、課題等を踏まえ職務内容に応じた専門性を高める為、必要な知識及び技術の習得に努めなければならない。と保育所保育指針にうたわれています。令和4年度に行った自己評価を分析し、職員の専門性を高め、資質向上に努めていきたいと考えております。